



発行者
諫早市立真城中学校
校長 山内 昇

学校教育目標

- 広い心と公正な判断力のある、情操豊かな生徒を育成する。（徳育）
- 自ら求めて学び、豊かな知性を備え、創造力に富む生徒を育成する。（知育）
- 健康でたくましく、忍耐力に富む生徒を育成する。（体育）

合唱交流会を開催しました。

「風は見えなくても風車は回る

音楽は見えなくても心に響く」



合唱交流会の開会のあいさつで紹介した、私の好きな言葉です。21日（火）に開催した、小中合唱交流会では、音楽のすばらしさ、目には見えないけれど、心に響く、そして多くの人々に感動を届けることができる力を実感しました。また、合唱に真剣に取り組んでいる生徒たちの姿は、本当に輝きを放っていました。小学生が、最後の3年学年合唱の時まで、集中して歌に耳を傾けていた姿が印象的でした。

小学生が体育館から帰るときに、一人一人の児童に声を掛けたところ、笑顔を返してくれたり、ハイタッチをしてくれる児童がたくさんいました。小・中学校で共同してこのような行事に取り組むことの意義についても実感しました。

写真のように、多くの保護者の皆さまにも参観していただきました。アンケートでは多くの温かい言葉をいただきました。以下に、いくつかの感想を紹介させていただきます。

中学1年生は初々しく一所懸命歌っていた姿が印象に残りました。2年生は、クラスのまとまりが感じられる歌声で、しっかりしているなと感じました。やはり3年生は落ち着いていて、高音・低音のハーモニーが綺麗な歌声でした。学年全体の合唱は迫力がありました。どの学年も素敵な歌詞・メロディで、心地良かったです。

子供達の歌声が、仕事で日々疲れた身体にしみて、フッと力が抜け、聴いていて心地よく感じました。自分でも意外な感覚でしたが、リフレッシュできた1日でした。歌ってやっぱり良いんですね。癒やしの時間をありがとうございました。

小学生は元気があって歌もすごく綺麗なハーモニーでした。中学生は機敏な動作も流石でしたが、みんなで大変練習した集大成を感じました。クラスが一致団結した素晴らしい歌声にとっても感動しました。全員が口をしっかりと開けて感情豊かに歌っている様子を見て感激し、真城中の生徒でよかったと思いました。開演までの待っている姿勢もとても良かったです。

皆さん、練習の成果が見られて、とても良かったです。先生方の応援も、良かったです。小学生と中学生と一緒に集まって歌声を披露する機会があるのは、素晴らしいことですね。子どもたちの年齢に応じた歌声と感動がありました。ご指導いただいた先生方、大変だったかと思いますが、ありがとうございました。



本日・22日（水）に、諫早市文化会館で、諫早市小・中学校音楽会 中学校の部が開催されました。本校からは、3年生が代表として出演しました。時折小雨が降る中でしたが、徒歩で会場まで移動しました。やる気に満ち溢れていたようで、ほとんどランニング状態で、あっという間に到着しました。

なお、今年の市音楽会（午前）は、右の写真のように、本校の鳥越さんと友永君が司会進行を務めました。落ち着いた進行で、音楽会の成功を陰で支えました。



各学校が次々と発表する中、真城中の順番が迫ると、少し不安そうにしている様子が見えました。しかし、ステージに上がると、いつもの3年生に戻り、前日の学年合唱を再現するかのような見事な歌声を、会場いっぱいに響かせていました。（11月16日に諫早ケーブルテレビでも放送予定です）

また、他校の発表（合唱、演奏）もたいへんすばらしく、諫早市内の同年代の仲間たちが、目標に向かって努力している姿を見ることができたことは大きな収穫だったと感じます。市内中学生の、会場いっぱいに響く歌声を聞いていると、将来の「ふるさと・いさはや」を支える「力」が着実に育ってること、そして、その仲間がこんなにもたくさんいることを、生徒たちに実感してほしいと思います。

私も、午前中の参観でしたが、市内中学生の歌声を聞きながら、心が癒され、活力が沸いてくるように感じました。

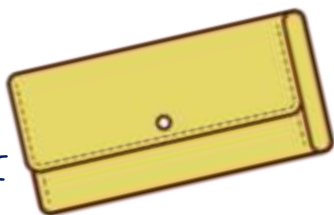
「音楽は見えなくても心に響く」は、本当なんだと、そう思わずにはいられませんでした。

3年生のみなさん、素晴らしい合唱をありがとうございました。そして、この素晴らしい歌声をつくり上げた経験は、なにものにもかえがたい素晴らしい宝物になると信じています。

○ 修学旅行のエピソードから（番外編）

修学旅行のエピソードを最後にもう一つ紹介したいと思います。

実は、2日目の京都自主研修の際に、どこかの見学地で財布を落としてしまった生徒がいました。



しかし、広い京都。観光客の数も相当多いです。見つけようにもどうしようもなく、正直なところあきらめていました。しかし、京都自主研修の集合時間直前に、京都南警察署から真城中学校に電話が入りました。「**財布の落とし物が届けられていますか、心当たりはないですか？**」とのことでした。財布に入っていた学生証から、真城中へ連絡をしてくださいました。すぐに本人と確認をして、落とした財布であることを、京都の警察署の方へ伝えました。またそのとき、財布は落とした時の状態そのままだったことも分かりました。ただし、京都を離れる直前で、時間的に警察署に寄ることは困難だったので、後日、本人確認を行った後で、返却手続きを行うことにしました。

修学旅行の翌週、迅速に手続きを進め、16日（木）には、郵送で財布が学校に届きました。送料が着払いだったので、財布を受取った生徒は、財布の中にあったお小遣いから代金を払い、丁寧にお礼を言って帰宅しました。この生徒の対応にも感心しました。

財布を届けてくださった方は、わざわざ警察署まで出向かれ、拾得物の手続きを行ってくださいました。自分の大切な時間を削って、財布を落とした人のことを考え、行動してくださったと思います。その優しい思いに、心から感謝をしたいと思います。

また、今回、この出来事をここで紹介したのは、真城中学校の生徒一人一人に、将来、どんな人になりたいかを考えるとき、よい指針となると考えたからです。

私も、京都南警察署の方には、感謝の手紙を書いてお届けしました。また、財布を拾われた方は、お礼等は不要ということで、連絡先を教えていただくことはできませんでした。直接感謝の気持ちを伝えることができなかったことが心残りですが、日本という国のすばらしさを感じることができました。